



る私との取組に、やりづらさを感じていた方もいたはず。体格差を自分の強みにできるよう稽古を積み、勝利を重ねました。

実は、私の大学の先輩、智ノ花関も、教員として高校に在職していた最中に大相撲入門を決意し、27歳で初土俵を踏まれた方なんです。年齢やハンディなど、挑戦を諦める要因

はいろいろありますが、大切なのは、「〇〇だからできない」と断念してしまうのではなく、「では、どうすればできるか？」と考えることだと思っています。

現 在、スポーツキャスターとしてもご活躍されていますね。

大相撲解説を務めているほか、過去にはオリンピックのリポーターも担当していました。冬季大会では2002年ソルト레이크シティー大会と2006年トリノ大会で、夏季大会では2008年北京大会と2012年ロンドン大会で、現地に赴いています。

昨年の東京2020オリンピックでは、女性の選手割合が高まり、日本では女子種目のメダル獲得

自分の強みを活かして、挑戦を楽しもう。

性別は関係ない！



数が過去最高でした。とても喜ばしい変化だと思います。また、開会式では多くの代表団において男女のペアが旗手を務めていました。「こんなに素敵な取組を、なぜ今までやらなかったのだろうか？」と思いました。

さらに、LGBTQを公表したアスリートが大会史上最多となったことに加えて、トランスジェンダーの選手が、初めて自認する性別で出場した大会だったそうです。こうした様々な出来事をきっかけに、ジェンダー平等や多

様性について、多くの人が考えたのではないのでしょうか。お互いに理解し合うことを大切にしながら、今後、議論が深まっていくと良いと思います。

女子相撲も、盛り上がりを見せています。

女子相撲には長い歴史があります。現在は毎年国際大会が開催されており、オリンピックの競技種目になることも目指しているそうです。世界的に知

名度が高まり、競技人口も増えています。海外でも盛んに行われていて、最近特に東欧などで人気広がっています。私の出身校である日本大学にも女子相撲部ができ、男子と合同で練習をしています。

稽古や大会で女子同士が激しくぶつかり合う様子を見ても、心配になっってしまう瞬間もあるくらいですが、本人たちはそんなことを全く気にしていません。強くなりたいという気持ちに、性別は関係ありません。彼女たちにも、精一杯挑戦してほしい、そして、楽しんでほしいと思います。

※このインタビューは、令和4年2月4日に行いました。

